

深谷地区復興拠点に整備する復興公営住宅「深谷団地」の建設工事が始まるのに伴い、1月24日、現地で安全祈願祭が行われました。

この「深谷団地」には、村民はもとより、新たに村に移住し村内で働く人なども入居できます。竣工は今年の9月、入居開始は11月頃の見込みで、入居募集は事前に行い、余裕をもって入居者を決定する予定です。また、団地に隣接して深谷地区の集会所も整備され、入居者と地区の住民の交流の場としても活用されます。

「深谷団地」以外の既存の村営住宅でも再整備が進んでいます。草野地区の大谷地住宅では、16戸が建て替えられ、集会所も今年6月に完成する予定です。修繕した白石・深谷・伊丹沢の村営住宅も含め、入居状況は満室で、現在空室があるのは笠石住宅のみとなっています。なお、桶地内団地は、平成30年度に建て替え工事を行う予定です。また、避難指示解除後の村への転入

者は増加の傾向にあり、1月1日現在で、22世帯36人となっています。

村は、村に移住する人、通勤する人、訪問・交流する人などの増加も、復興に欠かせない大事な要素と考えています。次年度から「移住・定住・交流」専任の職員配置を検討していて、移住に関する補助も充実していく予定です。

宅地分譲や住宅の新築には、補助や税制面での優遇を検討しています。分譲する宅地については、震災前の事業を引き継ぐ形で、長期間の移住を条件に無償譲渡することも検討しています。また、中古物件の購入やリフォームへの補助、雇用の場の紹介、引っ越し費用の補助、子育て支援事業など、さまざまなバックアップも検討中。議会の審議や承認を経て、事業の詳細が決定すれば、随時公表していきます。

「深谷団地」に象徴される「ネットワーク型」の村づくりは、今後の村の発展につながる大切なテーマの一つ。移住者の多くから「村の人はやさしい」「人のつながりがあたたかい」と言う声が聞かれますが、村民のまじないな生き方、暮らしぶりも、人を呼び込む大きな魅力です。より力強いネットワークを築いていけるよう、人と人とのつながりを大切に、村全体で力を合わせていきます。

安全祈願祭であいさつする村長。地権者や地域住民、事業を支援する国・県、関係者らに改めて感謝を述べました。

「深谷団地」には、15戸の住宅と集会所が整備されます。場所は「いいたて村の道の駅までい館」の裏手で、「深谷団地」と道の駅の間には、公園も整備される予定。15戸の内訳は、一戸建てが9棟9戸、長屋住宅が3棟6戸で、住宅ごとの多様なデザインが楽しい家並みをつくり出します。また、団地の住民同士のコミュニティスペースとしてトレーラーハウスを置くというユニークな試みも。住宅の間取りも、高齢者の単身世帯、共働きの家族世帯など、さまざまなニーズに合わせてデザインされています。

